

スポーツ文化の風を発信する

学報NITTAIDAI 14号

2007.Spring



CONTENTS

ロゴマーク等の使用申請方法、使用規程 — 1

平成19年度事業方針 — 2

平成20年度から入試制度が変わります — 3

INTERVIEW●アスリートたち — 5

Active People●社会の第一線で活躍するOB・OG — 7

Column●スペシャリストに学ぶ! 健康&スポーツ — 9

大学院の紹介●3学系の最新ニュース&レポート — 11

キャリア教育支援講座 — 12

NEWS●06年度下半期ニュース — 13

クラブ情報●06年度下半期クラブの主な大会成績 — 14

INFORMATION●dot.NITTAIDAI — 15



NSSU

Nippon Sport Science University

岡村 繁伸(体育学科・4年) 撮影:横浜・健志台キャンパス ラグビー場



規程の制定について

大学名、校章、シンボルマーク、ロゴマーク、シンボラスコットが、本学以外の個人や会社、学校、団体等に無断で使用されないよう、または模倣されないよう、法的に独占使用権を得るための手段として、「商標登録」というものがあります。本学はこれらの各種マークを特許庁へ申請し、昨年、その独占使用権が認められ、本学固有のものとなりました。

よって、本学の教職員、学生であっても許可なく、本学のマークやロゴを使用することはできなくなりました。また、このたび、「登録商標使用規程」、「登録商標使用取扱要領」を制定したことで、ルールに沿った使用が義務づけられます。使用に際しては、申請を行い使用許可を受ける必要があります。

申請場所、問い合わせ先
管理部広報課(東京・世田谷キャンパス1号館2階)

申請手続きの流れ



1. 広報課にて所定の用紙を受け取る。
2. 必要事項を記入した所定の用紙と使用図案を添付して広報課に提出する。
3. 届出、または申請内容を審査し使用許諾の可否を判断する。
4. 審査の結果を届出者、または申請者に通知する。
5. 許諾したものについて、学内使用は、使用を承認する書類を発行する。
6. 許諾したものについて、学外使用は、登録商標使用契約を締結する。
7. 登録商標の清刷り、または、データを受け取る。

日体大ブランドを確立! ~VIガイドライン~

社会的に本学の広報展開を行う際、学内におけるアイデンティティの確立は最も重要な事柄です。学内の統一された認識を構築することにより、「日体大ブランド」を確立し、これを基盤とした積極的な社会への全学的PR展開を目指すことが大事です。

しかし、これまでは校章及びシンボルマークの表記以外については、大学名等の表記の書体や表現方法、その使用方法などのルールがありませんでした。一般の方から見れば、一体どれが正しい「日体大」なの?と思われるかもしれません。

そこで、大学名表記やロゴ、シンボルカラーを全学として統一して使っていくための使用マニュアルとして「VIガイドライン」を作りました。大学名表記やロゴを使い、ユニホーム、ジャージ、Tシャツ等を製作する際、必ず「VIガイドライン」に沿って、正しく表示・使用して「日体大ブランド」をアピールしてほしいと願っています。

このVIガイドラインは、学生会クラブ・サークルの部長、顧問に配布します。
VI=ビジュアルアイデンティティ

■日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部 登録商標使用規程

(平成19年2月16日 理事会制定)

- (目的)
第1条 この規程は、日本体育大学及び日本体育大学女子短期大学部(以下総称して「大学」という。)の大学名表記等、校章、シンボルマーク、ロゴマーク、及びシンボラスコットの登録商標の管理及び使用について定める。
- (登録商標)
第2条 大学の登録商標(以下「商標」という。)の種類は、別表1のとおりとする。
2 大学又は教職員が大学内で使用する物品等には、この商標を使用するものとする。
- (使用及び手続き)
第3条 商標の使用は次のとおりとし、手続きは別に定める取扱要領に基づくものとする。
(1) 商標を大学又は教職員が大学内の業務に使用する場合(以下「学内使用」という。)、商標の使用を希望する教職員は学長に対し使用する商標の届出を行い、承認を受けるものとする。
(2) 商標を大学又は教職員以外の者に使用させる場合(以下「学外使用」という。)、商標の使用希望者は理事長に対し申請を行い、使用許諾を受けるものとする。この場合、理事長は使用者から商標使用料を徴収することができる。
- (使用期間)
第4条 商標の使用期間は、次のとおりとする。
(1) 学内使用 学長がその使用を取り消すまで
(2) 学外使用 3年以内で理事長が定めた期間
- (管理責任者)
第5条 商標の管理責任者は、大学事務局長(以下「局長」という。)とする。
- (登録及び抹消)
第6条 新たな商標の登録又は登録商標の抹消の必要が生じた場合は、学長は理事長に報告し、登録又は抹消の手続きを行う。
- (禁止事項)
第7条 商標の使用者は、商標の使用にあたり、次の各号に掲げる事項を行ってはならない。
(1) 商標を修正又は改変する行為
(2) 商標の再使用許諾
(3) その他大学が不適切と判断する行為
- (損害賠償)
第8条 商標の使用者が、この規程に違反することにより大学に損害を与えた場合、大学は当該使用者に対して損害賠償の請求を行うことができる。
- (使用の差止)
第9条 商標の使用者が、大学の名誉もしくは信用を著しく傷つけ、大学に損害が生じたとき大学が判断した場合、大学は商標の使用を差止める。
- (保存期間)
第10条 この規程に定める商標使用届出書等の保存期間は次のとおりとする。
(1) 登録商標使用届出書 使用取り消し後5年間
(2) 登録商標使用許諾申請書 許諾期間終了後5年間
(3) 登録商標 廃止後5年間
- (事務局)
第11条 商標の管理に関する事務は、管理部広報課が分享する。
- (改廃)
第12条 この規程の改廃は、学長の意見を聴いて、理事会が行う。

附 則
(施行日)
この規程は、平成19年2月16日から施行する。

■日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部 登録商標使用取扱要領

(平成19年2月16日 理事長裁定)

- (目的)
第1条 この要領は、日本体育大学・日本体育大学女子短期大学部(以下総称して「大学」という。)の登録商標(以下「商標」という。)使用規程第3条に基づき、その使用に関する手続き等について定める。
- (学内使用)
第2条 教職員が商標の学内使用を希望する場合、登録商標使用届出書(様式1)を学長へ提出し、学長の承認を受ける。なお、日本体育大学学生会所風団体は教職員に準じて扱うものとする。
- (学外使用)
第3条 商標の学外での使用を希望する場合、使用希望者は登録商標使用許諾申請書(様式2)を学長を経て理事長に提出し、理事長が許諾の可否を決定する。
2 許諾を受けたときは、使用希望者は必要な場合事務手数料を支払うとともに、商標使用料等を記載した契約書(様式3)を締結するものとする。
(1) 事務手数料 1回につき金3万円(ただし、学校法人日本体育会の設置校は除く。)
(2) 商標使用料 その都度契約書に明示する。
- 第4条 前項の許諾を受けた使用希望者は、事務手数料を契約書締結後指定日までに、また商標使用料を商標使用開始後、大学指定の口座に振り込むものとする。
2 指定日までに事務手数料が、又は商標使用開始後商標使用料が振り込まれない場合は、当該使用許諾契約は自動的に解除されるものとする。
- (禁止行為)
第4条 商標の使用に際しての禁止行為は、次のとおりとする。
(1) 大学及び大学教職員並びに学生の名誉又は信用を著しく傷つける行為
(2) 使用の許諾契約を締結していない営利目的の使用
(3) 使用を許諾された内容・範囲を超える行為
(4) 無許諾使用の行為
(5) その他使用が不適切と判断される行為
- 2 管理責任者は、前項各号に該当する事象を知った場合には、学内使用は学長に、また学外使用は学長及び理事長へ報告する。
3 管理責任者は、前項の報告の後、直ちに該当する物の回収を命じること、及び当該許諾を取り消す手続きを行うことができる。
- (使用の中止及び変更)
第5条 大学は、その業務遂行上やむを得ない事情が生じた場合には、商標使用を許諾された者への内容の変更又は使用許諾を取り消すことができる。
2 商標の使用者の都合で商標の使用を中止する場合は、直ちにその旨を書面にて学長又は管理責任者へ届け出なければならない。
3 商標の使用者は、承認又は許諾された内容に変更が生じた場合、第2条又は第3条に準じて届出又は申請し、新たに商標の承認又は許諾を受けなければならない。
- (損害の賠償)
第6条 商標使用者は、使用に関して大学に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。
- (事務局)
第7条 この要領に関する事務は、管理部広報課が行う。
- (改廃)
第8条 この要領の改廃は、学長の意見を聴いて、理事長が行う。

附 則
(施行日)
1 この要領は、平成19年2月16日から施行する。
2 この要領は施行日より直ちに発行者とするが、特に猶予願いを提出し、許諾を得た使用者においては、学長と使用者が協議の上決定した日から発行者とする。

別表1 (第2条関係)

商標名	校名(大学)	校名(短大)	略称英文1	略称英文2	校章	シンボルマーク	ロゴマーク	シンボラスコット
イネジネーター	日本体育大学 Nippon Sport Science University	日本体育大学女子短期大学部 Women's Junior College of Nippon Sport Science University	NITTAIDAI	NSSU				

知識基盤社会をリードする魅力ある個性豊かな体育・スポーツの総合大学を目指す 日体大の今年度マニフェスト!

平成19年度 日本体育大学および日本体育大学女子短期大学部 事業方針

方針の概要

高等教育を取り巻く様々な環境の変化を踏まえ、建学の精神に基づいて構築された将来構想を確実に実現してゆく。これにより新しい時代・社会の要請に応え、知識基盤社会をリードする魅力のある個性豊かな体育・スポーツの総合大学を目指す。

優秀な学生確保のための選抜制度の改革及び競技力の向上並びに高度な知識の獲得が図れ、かつ人間形成を有機的に可能とする教育・研究・運営体制の改善と充実、併せて魅力あるキャンパス施設・設備の整備、学生の就労意識の向上と就職支援体制の強化などの重要課題に対する具体的な成果を実現する。さらに、本学の社会的責任を達成するための取組として、様々な社会貢献活動や地域に密着した奉仕活動等、社会的評価の向上に向けた関連事業を積極的に推進する。

(1) 東京世田谷キャンパス再開発の推進 及びその他の施設・設備の整備

今年度より本格的に着工となるキャンパス再開発計画について、これを最優先課題と位置付け、竣工予定である平成23年度の完成を目指して横浜・健志台キャンパスの活用を軸とした効果的なリノベーションを構築し、必要とされる施設・設備の整備を遅滞なく進行させる。また、再開発の進行と並行して、両キャンパスの既存施設・設備の維持管理のための計画的な整備を行うとともに、特に、横浜・健志台キャンパスについては、東京世田谷キャンパス再開発の竣工後、速やかにキャンパス全体の整備に取り掛かれるよう、具体的な計画立案に着手する。

(2) 大学及び短期大学部改革の推進

大学の将来構想として策定した大学改革に係る11構想の具現化に向け、各プロジェクトが定めた各構想の具体的方策に基づき、順次作業を進め、体育・スポーツの総合大学としての充実を目指す。特に、「キャリア支援センター」(仮称)及び「アドミッションセンター」(仮称)については、可及的速やかに開設を推進する。また、本学の「ミッション・ビジョン」にも謳われている競技力の向上に資するため、学生会運動部に対して補助金を支給する。これ以外に平成19年度以降、学

内外における不慮の事故等、不測の事態が発生した際に対処可能となる資金を予備費に計上する。

(3) カリキュラムの改訂及び 専攻科保育専攻の開設準備

大学体育学部では、平成18年度に策定した新教育課程の基本的考え方を踏まえ、平成20年度から新カリキュラムを導入するための具体的計画を立案する。併せて、カリキュラム改訂に伴った学務システムの変更を行う。また、短期大学部においては、専攻科保育専攻に平成20年度から学生を受け入れる。

(4) 学生の育成と生活環境改善及び 学生サービス向上への取組み

学生寮は、「教育寮」と位置づけ、人間教育及び伝統継承の最前線として、秩序ある共同生活を通じて模範となるべき社会人・体育人としての基盤を培うとともに、数多の伝統を正しく継承する生活空間の役割を果たしている中、社会環境やライフスタイルの急激な変化や大学全人時代の到来を真摯に受け止め、寮関連施設の老朽化への対応を可及的速やかに推進し、優秀な学生を確保した後の責任ある生活環境の維持に努める。また、学生証の付加価値を高め、学内サービスのみならず公共の利便性を向上させるため、非接触ICカード技術方式などの情報関連技術を積極的に活用し、直接的な学生サービスに取組むこととする。

(5) 情報社会に即した学内環境の整備

利便性とセキュリティ向上の相反すると思われる大きな目標を実現するため、各部署で執り進められる業務を支援する。基幹業務システムの構築及び運用支援並びにインターネットの技術を活用したポータルシステム及び電子メールシステム等、情報系システムの構築及び運用をその機軸から逸することなく継続改善していくことに加え、双方のシステムの融合、シームレスな交流を二層進めることとする。また、本学における情報技術活用の戦略を講じ、事務系職員を対象とした支援業務の展開から教員及び学生、さらにはスークホルダーをも対象としたサービスの展開に意識を移行させるため、その具現化に向けた積極的な情報技術の

分析・活用を推進する。

(6) 優秀な学生確保のための 選抜制度の改革

体育系学部・学科の増加や18歳人口の減少等、学生定員確保のために全学的な対策を講じなければならない状況が進行していることを踏まえ、本学に相応しい学生確保を主眼として筆記試験及び実技試験の見直しやAO入試制度導入の検討などを推進し、より効果的な入学試験方法を確立することに努める。

(7) 新しい日体大の姿勢や考え方に 着眼した広報戦略

11の大学改革構想の進捗を適時に捉え状況を段階的に発信し、スークホルダーへの情報提供を行うとともに、優秀な学生確保のための学生募集に関する広報活動を推進し、本学の独自性や教育研究による成果を幅広くアピールするため、従来の広報誌及びホームページの更なる充実を図る。また、本学の広報戦略の一貫として隔年で実施している体育研究発表実演会を東京及び中国・四国地区で開催する。

さらには、正統なシンボルである「校章」「シンボルマーク」「ロマーク」「シンボルスラット」を未来永劫にわたり適正に継承するため策定した「ビジュアルアイデンティティ」(V.I.)ガイドラインの周知・徹底に努めるとともに、日体大ブランドを正しく継承する環境整備とV.I.を積極的に活用した広報戦略の策定を図る。これに伴って、学生会運動部等における「ユニフォーム」等の作り替えに対する補助を行い、学内のイメージの統一化を支援する。

(8) 募金活動の実施

東京世田谷キャンパス再開発事業に関連して、募金活動を行う。寄付金は都心にあるキャンパスとしての利便性と機能性の向上に資するものとする。募金にかかわる委員会を設置し、学長を委員長として、期工事及び二期工事に反映可能となる寄付金を募ることとする。

平成20年度から入試制度が変わります。

平成20年度入学試験へ向けて ～入試改革の取組みについて～

体育・スポーツ系の学部や学科が他大学で
相次いで新設され大学間競争が激化するなか、
本学は入試改革を行い、より優秀で日体大らしい
学生の獲得をめざす。



副学長(教学・学生生活担当)
入学試験対策委員長

滝沢 康二
たきざわ こうじ

アドミッションセンター設置構想

本学では、新時代の要請に応えるべく、建学の精神である、体育富強之基に基づき「ミッション」(社会的使命)、「ビジョン」(目標)を実現するために、「11の大学改革構想」を昨年度に策定し、大学改革宣言をいたしました。

この11の大学改革構想のひとつに「アドミッションセンター設置構想」があります。この構想は、本学の建学の精神に基づき「ミッション」や「ビジョン」の実現のために、さらには有能な人材を日体大に誘うために、本学入試制度改革を積極的に推進する柱となるものです。

この構想に基づき入試制度改革の「環」として、近年の様々な社会事情も併せて検討した結果、「一般入試実技試験種目の変更」と、「AO入試導入」を、平成20年度入試から実施します。

一般入試実技試験種目を変更

本学の一般入試実技試験種目は、ここ数十年(100m走)マツト運動(バレーボール)バスケットボール)を実施し、基礎的運動能力である「走力」に「技能的な要素の運動能力」を加味して評価してきましたが、今回の入試制度改革で実技種目の見直しを行い、基礎的な身体能力(体力)を重視して評価する試験種目(50m走)ハンドボール投げ、反復横とび(上体起し)に変更することとしました。

これは、近年子どもたちの身体能力(体力)が長期的な低下傾向にあつて憂慮すべき状況のなか、将来、学校をはじめとする社会のあらゆる場面で体育・スポーツの指導者として活躍が期待される本学学生として、この「体力」の重要性を再認識することは有意義なことだと思われるからです。また、本学の重要な使命の一つでもある、「競技力の向上」には「この、体力の向上」が必須の重要課題でもあるからです。

そこで、本学の入試改革の「環」として、実技種目の見直しを行い、「体力」の重要性を再認識し、これを評価する試験種目に変更するのが望ましいと判断しました。

AO入試の導入

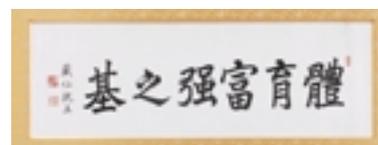
AO入試については、トップアスリートを対象とした「スポーツAO入試」と、日本の伝統芸能や、民俗芸能の習熟者を対象とした「武道学科AO入試(伝統芸能コース)」を実施します。

AO入試とは、「詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせる」ことにより、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判断する方法」とされており、すでに多くの大学で実施されています。

本学でも日体大らしいAO入試について検討を重ねてきましたが、平成20年度入試から前述した2種類のAO入試を実施します。いずれも、本学の「建学の精神」、「理念」を十分に理解した上で、本学に入学する強い意思・意欲のある受験生を対象として実施します。

建学の精神

『体育富強之基』



「体育富強之基」について(理念)

真に豊かな国家・社会を実現するためには、体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を数多く育成することが肝要である。

ミッション

1. スポーツ科学全般の先駆的研究およびその実践を通じて、人間の心身が有する可能性を総合的に究明し、国民の体力向上、ひいては国際的な競技力向上に貢献する。
2. 我が国のスポーツ文化の深化・発展に努めるとともに、オリンピック・ムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与する。
3. トップアスリートはもとより、地域社会において指導者やリーダーとして活躍しうる人材を輩出し、健康で豊かな生涯スポーツ社会を構築するための原動力となる。

ビジョン

日本体育大学は、独自の教育・研究プログラムを創造的に展開し、我が国の体育・スポーツ界ならびに来るべき知識基盤社会をリードする大学を目指す。また同時に、心身ともに逞しく、明朗快活で、自らが選択した職種の現場において強い即戦力として活躍できる人材の育成を図る。



2007年度 オープンキャンパス 開催日程

第1回	平成19年5月27日(日)
第2回	平成19年6月24日(日)
第3回	平成19年7月21日(土)
第4回	平成19年8月25日(土)
第5回	平成20年3月29日(土)
全日程	横浜・健志台キャンパス 10:30～14:30(受付10:00～)

東京・世田谷キャンパスは再開発工事に伴い、実施いたしません。
入試課 事務取扱時間 平日 / 8:30～17:00 Tel 03-5706-0910

プレーする以上は頂点を目指します。 目標は大学日本一！



日体大ラグビー部は大学選手権2度、関東大学ラグビー対抗戦グループ5度の優勝を誇っている。しかし幾多の日本代表選手を輩出した名門もここ数年は低迷を余儀なくされているのが実状だ。復活へのキーマンである岡村繁伸君に現在のラグビー部の課題、また復活への手応えを聞いた。

[ラグビー部] 岡村 繁伸 (体育学科・4年)

ラグビーを始めたきっかけを教えてください。

岡村 小学校4年生の時に、地元の熊本ラグビースクールに入団しました。きっかけは祖父と父親の影響です。父親は日体大OBでラグビーをしていたのですが、幼少時からの自然の流れでラグビーを始めていました。日体大に入学したのも父の影響が大きかったですね

ラグビー以外の競技には興味がなかったですか？

岡村 実は中学時代にラグビースクールとは別に学校の部活動で陸上をやっていたことがあるんです。ただラグビーの魅力を上回ることはなかったですね。どうも個人競技は苦手なようです。

ラグビーに対する考え方で、高校時代と変わったところがあれば教えてください。

岡村 練習への取り組み方は高校時代と変わりましたね。指導者の方から与えられているだけでは、技術面も精神面も成長しません。自分をよく分析し、何が課題として存在するのか、グラウンド上では気持ちを前面に出すことも必要ですが冷静な自分も必要になってきます

大学に入学してポジションが変わったそうですが。

岡村 ラグビーを始めた当初から大学入学まではスタンドオフという、パックスの司令塔的なポジションをやっていました。昔から自分は足が遅くて...(笑)、フランカーにコンバートされて自分本来の持ち味を生かせるような気がします。ただ、どのポジションでもラグビーの魅力は変わらないです。

ラグビーの魅力とは何なのでしょう？

岡村 選手のプレーで観ている人が熱くなれる。もちろん自分もそれ以上に熱くなっていると思います(笑)。それとチームスポーツですから、一人の力だけでは試合に勝てないところが奥深いですね。逆に言えば多少個の力が劣っていても、チームが団結することが出来れば勝利を手にすることが出来るというところが、この競技の魅力の一つではないでしょうか。

学生生活も忙しいと思いますが。

岡村 シーズン中はほとんど休みなしですから、オフ体を休めるだけです。ただ授業はしっかりと出ていますよ。印象に残っている授業は「スポーツ社会学」ですね。スポーツと社会の関わりを意識するようになりました。また、授業では他競技の学生と交流できるのも楽しみです。

日体大ラグビー部復活の鍵はどこにあると思いますか？

岡村 全体的に見ると課題はたくさんあります。約90人の部員が同じ方向を向いて強くならなければならないと感じています。しかし全員が自分たちのラグビーに自信を持てるようになったときは、ここ数年勝利から遠ざかっている「早慶明」にも互角に戦えるはずですよ。

最後に今シーズンの目標を教えてください。

岡村 大学日本一。そこをゴールに設定しないと何も始まらないですから。もちろん、そこへ至るには超えなければいけない事はたくさんありますが、プレーする以上は頂点を目指します。古豪復活と言われるよう、勝ちにこだわったラグビーを追求していきます。是非とも多くの人に競技場へ足を運んでもらい、日体大を応援してほしいですね。強い日体大を見せまそうのでよろしくお願いします。

(2月22日、横浜・健志台キャンパスにて)



【PROFILE】 おかむら・しげのぶ

1985年熊本県生まれ。

県立熊本西高校出身 身長 / 175cm 体重 / 78kg

主な戦績: 高校2年次全国高等学校ラグビーフットボール大会出場。

弟も現在関東学院大学ラグビー部に所属するラグビー一家。今季の目標は強豪校から勝利を挙げ旋風を起こすこと。また最終学年を迎えたが、進路は「教員か一般企業か悩んでいる」。現在の趣味は休日のホームセンターめぐり。

< 表紙を飾る >

日本舞踊を通して日本文化を学んだことが、国際交流にも役立つ。

武道学科というと、柔道や剣道のイメージが強いが、武道学科伝統芸能コースに入学し、ダンス部に所属しながら、日本舞踊に取り組んでいる平さんのような学生もいる。高校時代は新体操でインターハイ、国体に出場した経験もある平さんに、日体大で“日本の伝統芸能を学ぶ”という魅力について語ってもらった。

[日本舞踊]

平 有希

(武道学科・4年)

武道学科で伝統芸能を学べるといのは意外に知られていないのでは？

平 確かに、クラスの友人からも“専門実技は何やっているの？”などとよく聞かれます。古今東西のあらゆる舞踊や芸能について学べるので、踊ることが好きな人にとっては最高です。これほど舞踊について学ぶ環境が整っているところはほかにないと思うので、もっとみなさんに知ってもらいたい、という思いはあります。

舞踊に興味をもつようになったきっかけは？

平 高校入学時くらいから日体大に進学することを考えていたのですが、私の通っていた学校には、日体大卒の日本舞踊の名取の先生がいて、その先生に進学相談をお願いしたところ、“こんなふうに踊りを専攻することもできる”とご紹介いただいたことがきっかけです。新体操の部活の合間をぬって、日本舞踊の稽古もつけてくださいました。

新体操への未練はありませんでしたか。

平 新体操は幼稚園のころからやっていましたが、大学では新しいことをやろうと考えていたので、後ろ髪をひかれるような思いはありませんでした。“表現する”という根本においては、両者とも似ていますね。

日本舞踊の魅力とはどのようなところでしょうか。

平 日本舞踊は簡単に言い表せば「日本の舞踊」ということになります。歴史的にその発祥から現代まで少なくとも400年の歳月の中で、洗練を重ねて大成されたのが日本舞踊です。和の世界、先人達が大切に築いてきた日本の伝統美や長年に亘って伝えられてきた“形”をいかに再現するかなど、日本舞踊には数え切れない程のたくさんの魅力があります。日本独特の間の取り方や、扇を月や杯に見立てて表現する動きなど、本当に奥の深い伝統芸能です。今は、動かない表現方法というか、技術を伴う心情を表すことを追究していくことにのめりこんでいます。

現在の活動の様子について教えてください。

平 日本舞踊は授業とクラブ活動で週1回ずつ、年に1度の伝統芸能研究発表会を目標に稽古に励んでいます。時間にすると総計で週6時間くらいです。それ以外はダンス部で活動していてモダンダンスをやっています。こちらは夏のコンクールをめざしています。西洋のダンスと日本舞踊の比較が多角的にできて、とても興味深く活動しています。この活動を活かして、日本舞踊の重心を低くした踊りの要素を取り入れた、新しいダンススタイルの創造もしてみたいですね。

将来の目標は？

平 大学卒業後は高校の教員になりたいと考えています。また、「伝統文化交流・外国語実践実習」でオーストラリアにおいて、和太鼓や舞踊の発表を通じて、深いコミュニケーションが取れたことがとても印象に残っていて、仕事とは別に、世界各国の“スポーツと人の関わり方”を研究することもライフワークとして続けていきたいと思っています。

英語の勉強もがんばらなくてはなりませんね。

平 そうですね。ただ、外国の方と話をするときは、日本の文化についても知らなければいけません。伝統文化や日本舞踊を極めるために、卒論のテーマも「日本の伝統芸能について」としました。スポーツが国際平和につながるよう、少しでも貢献できればと考えています。

(3月2日、東京・世田谷キャンパスにて)



【PROFILE】 たいら・ゆき

1985年福岡県生まれ。

福岡県私立折尾愛真高校出身。高校時代から、部活動の新体操と両立させて日本舞踊を始める。現在は、日本舞踊のほか、創作ダンス、ジャズダンス、モダンダンスにも取り組む。さらに能や狂言なども研究中。両親も日体大卒業生。父親はサッカー、母親は陸上の短距離の選手として活躍した。

和田 喜久夫さん

1979年3月健康学科卒業

文部科学省「平成18年度体育指導委員功労者」表彰を受賞



「人生はスポーツでより一層豊かなものになる。地域スポーツ指導のスペシャリスト、その真髓を語る。」

和田喜久夫さんが地域でのスポーツ活動に尽力するようになった原点は、日体大での経験にあるという。

「勝利が第一」の競技スポーツとして剣道をやってきましたが、大学1年で体調を崩し、断念せざるを得なくなりました。その後、プロテニススクールでインストラクターとして、子どもやお年寄りの指導をした経験などを通して、「みんなが楽しめる」という視点でスポーツをみられるようになったのが大きかったです。在学中にソフトボールやゲートボールの審判員、体力テストの判定員などの資格も取りました。

大学卒業後は、郵便局の仕事と並行し、勤務終了後の夜間や土日を利用して地域スポーツの振興に努める。そして、その活動実績が認められ、28歳という異例の若さで、八王子市教育委員会より体育指導委員に任命された。体育指導委員は40歳過ぎでの任命が通例のなかでの抜擢であった。

「持ち回りで引き受けることになった自治会の役員を皮切りに、体力づくり運営委員や、大和田市民センター運営委員などを務めました。その間に、地域の市民運動会をプロデュースしたり、「八王子コミュニティセ

ンター」の利用促進のため体力テストを実施したりと、具体的に活動したことがきっかけとなったのでしよう。

和田さんが特に力を入れてきたのは、テニススポーツの指導・普及と考案。そして生まれたのが、ネオテニスである。

「ネオテニスというスポーツは、老若男女が楽しめる」ということをテーマに、平成8年に私と八王子の間で考えた新しいスポーツで、生涯スポーツとして広く普及活動を開始しました。バドミントン用のコートとラケット、テニスの練習用スポンジボールを用いて行います。スポンジボールなら、若い男性の強烈なスマッシュも、ワンバウンド後は威力がなくなるので、あまり力がない年配の方や小学生でも打ち返してプレーできると言われています。

現在も、八王子市ネオテニス協会会長をはじめ、日本テニス協会常任理事・審判委員長に任に就いています。こうした活動に和田さんを駆り立てるものとは何なのか。「ネオテニスは市民大会を数多く開催していますが



体育指導委員功労者表彰とは
文部科学省が、各都道府県教育委員会を選考を経て推薦された体育指導委員として地域スポーツの振興に功績顕著な者を表彰するもの。昭和57年度の第1回表彰以来5年ごとに行ってきたが、平成12年9月に告示された「スポーツ振興基本計画」において、体育指導委員が担うこととなる地域スポーツの振興における中核的な役割の重要性に鑑み、平成12年度以降毎年表彰している。

コートではお年寄りや小学生がペアを組んで共に語りたり笑ったりする光景がみられます。私自身も参加チームの忘年会に招待されることがあるなど、もはや一つのコミュニティといっても過言ではありません。人生はスポーツでよりいっそう豊かになる。それを、もっと多くの人に広めていきたいのです。

昨年は、文部科学省より全国で92人しかいない平成18年度体育指導委員功労者の1人として表彰を受けた。仕事以外の面で評価されたことが嬉しい。今後、この活動を続けたいと語る和田さんに、日体大生へのアドバイスをお願いした。

「地域スポーツや生涯スポーツの指導者を目指す学生が多いと聞きますが、とにかく、歩踏み出す勇氣をもつことです。カベにあたらしたら、1人で抱え込まずに仲間を頼ればよい。すると自然に輪が広がっていきます。また、市町村などの行政から協力を得られると、施設・予算などの面で有利になりますので、日体大発祥のスポーツはまだまだだと思います。日体大オリジナルの競技を発案・普及させるような学生が出てくるといいですね。」

PROFILE わだ・きくお

1955年東京都生まれ。

はる・るのプラザ町田内郵便局長。小学生時代から水泳・剣道でトップクラスの実力を誇り、地元の高校卒業後、日体大武道学科剣道専攻に入学。しかし、1年ほどで体調を崩し、剣道を続けることが困難になり、健康学科へ転学科する。79年に日体大を卒業、同年郵政省に採用される。84年より八王子市体育指導委員に。体育指導委員の協議会では、総務部長、研修部長などを経て会長。東京都体育指導委員協議会理事にも就任。06年には、「体育指導委員功労者」として文部科学省より表彰された。

ネオテニスの詳細は「八王子市ネオテニス協会」(<http://www.002.upp.so-net.ne.jp/neokyokai/>)参照。



野海 恵子さん(旧姓石川)

2000年3月体育学科卒業

1998年バンコクアジア大会、2002年釜山アジア大会、
2006年ドーハアジア大会 セパタクロー日本代表選手

競技開始から2年で日本代表に。 これからもずっと、セパタクローと共に生きる。



セパタクローは、ネットの高さは1.55mで、コートの大さはバドミントンと同程度。トランペットとなる、サッカーというオーバーヘッドキックやジャンピングボレーでアタックを蹴りこむなど、迫力満点のゲームが展開される。野海恵子さんは、そんなセパタクローの日本代表として活躍してきた。

「高校までバレーボールをやっていました。大学では何か新しいスポーツを始めようと思い、アルティメットやラクロスなどにも興味をもちました。スポーツに關しているいろいろな選択肢がある日体大に入って本当によかったです。」

競技を始めて間もない大学2年次に日本代表に選出されインドネシア遠征に参加することになった。

「私は高校時代バレーボール選手としてはどこにもいるような平凡な存在でした。ですから、日本代表として本場にやれるの?というのが正直なところで、実際に1勝もできませんでしたが、地元インドネシアと接戦を演じて、もっ少しがんばれば勝てる、負けたま

までは悔しいという思いが生まれましたね。」

その後も、バンコク、釜山、ドーハと3度のアジア大会に日の丸を背負って出場を果たした。

野海さんは現在、競技を続ける傍らセパタクローの普及にも力を入れている。課題は競技を行う環境の改善。日本代表選手といえども、アルバイトや非常勤職員という形で働きながら練習しているのが実状だ。

「セパタクローを取り巻く環境はよくはないですね。今後のレベルアップや後進の育成のために、何か行動しなきゃいけないと思います。企業がスポンサーにつくようなスポーツにしたい。」

そのために必要となるのが、競技の普及活動だ。野海さんは他の選手とともに、小・中学校でセパタクロー1日体験授業を実施したり、老人介護施設で風船を蹴るレクリエーションを行ったりと、地道な活動を展開している。「こうした活動は、学校や施設の職員の間に日体大の卒業生や関係者がいて、そうした方々のご協力により可能になりました。今後もっとと広めて

いきたいですね。」

小・中学生を教えていると、素質を感じる子どもに出会うこともあるという。「この子ほしいな」と思いますがね笑。ただ、力のある子どもはほかのメジャースポーツに流れてしまいます。日本のセパタクローは大学から始める人がほとんどで、技術や経験に劣る日本勢は、タイなどの強豪には、まだ勝てません。中学生くらいから競技に取り組める土壌を作れば、日本も強くなって、多くの人に注目してもらえるようになるのかなと」。06年には人気テレビ番組「ジャンクSPORTS」の「美人アスリート特集」にも出演した。「雑誌に掲載された私を見た、テレビ局のプロデューサーの方から協会に電話がありました。恥ずかしさもありませんが、セパタクローを少しでも多くの人に知ってもらえればと思いいっぱいお受けすることにしました。」

ひとつのスポーツの発展をライフワークとして追求し続ける。そんな生き方を、野海さんは体現している。

(2月28日、東京・世田谷キャンパスにて)

PROFILE のうみ・けいこ

1977年神奈川県生まれ。

高校時代はバレーボール部に所属。「スポーツ好き」と「保育士になりたい」という夢から、日本体育大学女子短期大学部保育科を目指す。高校の先生から高い身体能力を買われ受験前になって、体育学部への挑戦を決意し、日本体育大学へ進学。入学して間もなくセパタクロー同好会に入り、2年次に日本代表選手に。以降、バンコクアジア大会(98年)、釜山アジア大会(02年)、ドーハアジア大会(06年)に出場。最近では、世田谷区内小学校の学童クラブの非常勤スタッフとして働くかわら、地域でのスクール開催など、セパタクローの普及にも力を注ぐ。

このコーナーでは皆さんのすぐ身近にある健康問題やスポーツに関する疑問に焦点をあてて、シリーズで紹介しています。
第2回目の講師は、本学スポーツ局の安達瑞保さんです。安達さんは駅伝をはじめ、多くの運動部の栄養管理や食事指導を行い、記録や結果を追い求めるアスリート達をフルサポートしています。そのような最前線の現場サイドの見地から、体力・競技力向上のための栄養・食事の取り方について教えてもらいます。

スポーツ選手と栄養にはどのような関わりがあるのでしょうか？強くなるためには、厳しい練習が必要で、たくさん練習をこなして、激しい試合に対応できる、強い体をつくるためには、トレーニングや休養とともに、しっかりとバランスの良い食事をするのが大切です。私たちは食品を食べることにより、栄養素を摂取しています。スポーツ選手は栄養なくして強い体をつくることはできないのです。

強くなる食事トレーニングのキーワード『1ツタイダイ』

栄養素にはそれぞれ働きがあります。どの栄養素も不足や過剰がないよう、日々の食事で意識することが大切ですが、何を食へるとどの栄養素が主に摂取できるのか、『スポーツ選手と栄養素の関わり』と『スポーツ選手の基本献立』の色分けを参考にしてみてください。例えば、エネルギー源になる栄養素を主に補給できるメニューである主食は、同じ黄色で表されています。

大事な試合で勝つため、強くなるためには、試合当日の食事だけではなく、試合までどのようなコンディショニングを行ってきたのか、どのような食事をしてきたのかということが大切です。強い体をつくるため、『1ツタイダイ』で食事を続けましょう！

『スポーツ選手と栄養素の関わり』

エネルギー源になる栄養素
炭水化物、脂質、たんぱく質

体をつくる栄養素
たんぱく質、脂質、ミネラル類

体調を整える栄養素
ビタミン類、ミネラル類、水

ニ	日課にしようコンディションチェック
ツ	続けて身につく食習慣
タ	たして増やそう、色・具・品数
イ	1日3食、プラスは補食
ダ	大事なバランス基本の6皿で整えよう
イ	いつでも、どこでも、自分でできる 自己管理



スポーツ局
医・科学サポートスタッフ
管理栄養士
あだち みずほ
安達 瑞保

二 日課にしようコンディションチェック

コンディショニングを成功させるためには、自分の体を把握することが大切です。練習日誌には、練習メニューだけではなく、体調・休養に関する項目（睡眠時間など）、食事内容（補食含む）、起床時体重（体脂肪率）などを、チェックして記録しておきましょう。トレーニング量は増えたのに、筋肉量が増えない、もしくは食事の内容はいつもと変わらないのに、体重が減り続けるといった変化があった場合、記録しておくことで、体重や体脂肪率の増減と練習メニューから、その間の食事内容が見合っていたか、他の項目とともに見直し、改善を図ることができます。

ツ 続けて身につく食習慣

食事についての知識はあっても、実際に食へなければ体に栄養素は入ってきません。今日の食事が日々のトレーニング効果に、3ヵ月後の血液状態、10年後の骨の状態にも影響しています。体は代謝を繰り返しているため、一度の食事や短期間の食事では強い体をつくることはできません。バランスのよい食事を継続することが大切です。

タ たして増やそう、色・具・品数

白米に玄米を混ぜるとビタミン類の摂取量を増やすことができます。黒ゴマ（など）、白ちりめんじゃこ（など）、緑青（など）など色をまぜるとビタミン類やミネラル類の摂取量を増やすことができ、汁物も、緑黄色野菜や海藻、豆腐、揚げなど具だくさんにすること、同じ皿でも色々な栄養素が摂取できます。外食時に単品ではなく定食にする、基本の6皿をイメージして野菜のメニューをプラスする、品数をたすことで偏りがなく、バランスのよい食事に整えることができます。



実践! 強くなる食生活

イ

1日3食 プラスは補食

最近、朝食を食べない人が増えていきます。朝起きて朝食を食べることにより、血糖値や体温などが上がります。『朝食は1日のパフォーマンスの食事』です。眠いからと朝食を食べずに寝ていると、体だけではなく、脳の栄養素も十分ではなく、眠たいまま1日が始まってしまいます。また、スポーツ選手はトレーニングをしているため、1回でも食事をぬいてしまうと、残りの食事だけでは1日に必要となる栄養素量を摂取できません。朝食、昼食、夕食、1日3回の食事をきちんと食べることが大切です。

3回の食事では十分に摂取できない時は、補食を利用します。補食とは3食では不足している栄養素を摂取するためのものです。お菓子や炭酸飲料などでは、エネルギーは補給できても、たんぱく質やビタミン、ミネラル類を補給することができません。食事の間の間食、練習や試合の前に、不足している栄養素を補つため、目的を果たすための補食を選びましょう。

エネルギーを補給するための補食▽パン、おにぎり、カステラなど
たんぱく質、ビタミンやミネラル類を補給するための補食▽フルーツや果汁100%ジュース、乳製品など

タ

大事なバランス「基本の6皿で」整えよう

栄養バランスのよい食事にするためにはどのように食べるのか? 毎食「基本の6皿」(スポーツ選手の基本献立)をそろえるようにするとバランスが整います。基本の6皿とは、献立の組み合わせです。日体大のシンボルマークである桜は花びらが6枚ありますが、その1枚でも欠けてしまうと成り立ちません。同じように、スポーツ選手の食事は毎食6つ揃えることでバランスが成り立ちます。

「コンロ」や外食時、バイキング形式の食事であっても好きなものに偏らないよう基本の6皿をイメージして選択すると、バランスが整った食事に行うことができます。体を大きくしたい、持久力をつけたい、コンディショニングを維持しながら減量したいなど、目的に合わせて食事を調整するためにも、まずは基本となるバランスの良い食事を継続することが大切です。

「シンボルマークで覚えよう」基本の6皿
「スポーツ選手の基本献立」



外食時でも、毎食6つ揃えることでバランスのいい食事ができる

イ

いつでもどこでも自分でできる
自己管理

一人暮らしを始める、寮に入る、大会などで遠征にでる、スポーツ選手は自宅との食環境が変わることがあります。海外では日本と同じような食事を提供されない場合もあるでしょう。用意されなくても、必要なものを揃えて食べることができ、大会時、現地で体調を崩さないよう、時差や気候の変化などにも対応できる食の自立は強い体づくり、コンディショニングを成功させるためには不可欠です。自己管理はいきなり出来るものではありません。いつなにもどのように食べるのか、自分で考え実践できる。日頃の食生活における意識が大切です。

大学院の紹介

08

NITTAIDAIに大学院紹介が始まり、今回で8回目を数えます。今回は大学院体育科学研究科長の滝沢康二教授より、日体大大学院の抱負と展望を聞きました。また、平成18年度学位取得者一覧と学位記授与式の様子を紹介いたします。

大学院の抱負と展望

大学院体育科学研究科長 滝沢康二

1
 本学に博士課程が創設されて本年で10年目になります。体育科学という学問的認識の薄い分野での研究活動としては順調に推移してきたのではと自負しているところです。ちなみに、博士課程創設以来42名の博士が誕生しました。これは関係各位のご努力と学生の学問に対する真摯な態度の賜物であると確信し、改めて感謝申し上げる次第です。

さて、本学が学問の対象とする体育・スポーツは人類にとって益々重要な意味をもつようになりました。健康で豊かな人生を過ごすことは誰にとっても何ものにも換え難い最高の価値であるといえます。知識基盤社会の時代といわれる昨今、国民の期待するスポーツ競技力の向上と健康という最高の宝の維持・増進に向かって、スタッフ一同、学生共々学研活動に専念して参る所存です。幸い、本学にはその分野における高度な身体知(実践知)と豊富な著書・文献・研究器材等が兼ね備えられています。

平成18年度学位取得者一覧と学位記授与式

2
 本学大学院は博士前期課程と博士後期課程を配しており、本年度は体育科学修士33人および体育科学博士3人が学位を取得しました。以下に論文の題目と取得者の一覧を示します。また、課程博士學位論文の中から特に優れた論文に与えられた中野昭学術奨励賞は中島早苗さんと馮宏鵬さんに授与されました。

学位論文の内容が多岐にわたることから伺い知れるように、スポーツや健康に関わる幅広い分野での修士の活躍が期待されています。

平成18年度大学院博士後期課程修了者一覧		
氏名	所属学系	論文題目
馮 宏鵬	スポーツ文化・社会科学系	中国明代の武術史の研究ー武術の武装化の過程に着目してー
中島 早苗	健康科学・スポーツ医学系	身体運動および運動制限による酸化ストレスと抗酸化物質の効果
小山内弘和	健康科学・スポーツ医学系	運動後の自律神経系の反応に関する研究

平成18年度大学院体育科学研究科論文博士授与者一覧		
氏名	所属学系	論文題目
大川 信行	スポーツ文化・社会科学系	バスケットボールの戦術に関する歴史的研究(1891年から1945年まで)ー男子アマチュア・バスケットボールを中心としてー

平成18年度大学院博士前期課程修了者一覧		
氏名	所属学系	論文題目
青山 健太	スポーツ文化・社会科学系	Dクラマーが日本のサッカーの競技力向上に及ぼした影響(1945-1972)ー戦後日本におけるサッカーの技術史研究の一環としてー
秋葉 茂季	トレーニング科学系	自律訓練法を用いたメンタルハーサルが投手の投球コントロールに及ぼす影響ーA高校野球部の場合ー
安達 巧	トレーニング科学系	レスリング競技の選手管理に関する一考察
池松 和彦	トレーニング科学系	レスリング選手におけるバーニアウトとバーニャルサボートの関係
金子 憲一	トレーニング科学系	競輪選手におけるペダリング動作と脚伸展・屈曲動作の機械的出力特性に関する研究
金子 慧	健康科学・スポーツ医学系	軽運動(ウォーキング)が中年前者の前頭葉にあたる影響についてーMCL S2プランニングテストの変化よりー
木村 和宏	トレーニング科学系	バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察ー世界トップレベルのセクト・オフenseの傾向ー
栗山 幸幸	トレーニング科学系	動的バランステスト中の姿勢保持に関するバイオメカニクス的研究
佐藤 諭	トレーニング科学系	陸上競技種高跳の踏切局面に関する研究ー踏切動作の速度と踏切脚の角度に着目してー
進藤 大典	健康科学・スポーツ医学系	若齢および青年期における習慣的運動が社年期のMetabolic Syndrome risk factorに及ぼす影響ー遺伝性肥満・糖尿病モデルOLETF1ラットを用いた研究ー
高井 秀明	トレーニング科学系	心拍バイオフィードバックがアーチェリー選手の心身、パフォーマンス、発射タイミングに及ぼす影響
高田 丈裕	スポーツ文化・社会科学系	レスリング競技の近代化に関する研究ー競技規定の変更を中心にー
崔 允誠	スポーツ文化・社会科学系	権田保之助の「民衆娯楽」論に関する研究ースポーツ研究への応用可能性を探るー
月嶋 紘之	スポーツ文化・社会科学系	イングランドにおける「フットボール観客法1989」の成立に関する一考察ー「フットボール」を通る「法的暴力」の実態ー
編木 智彦	トレーニング科学系	サッカーペナルティキック時におけるコース予測の手掛りに関する研究
長沼 敦	トレーニング科学系	水球競技における大学常勝チームのゲーム分析
南 尚杰	スポーツ文化・社会科学系	現代中国における競技選手育成システムー1980年代以降の中国競技スポーツ改革を中心にー
新田光太郎	スポーツ文化・社会科学系	体育科教育における評価の在り方ー4観点評価とその実施に関わる問題をめぐってー
直川 匡孝	トレーニング科学系	自律訓練法における消去動作の基礎的研究ー筋力発揮、集中力、心理、生理指標からの検討ー
延國 毅	トレーニング科学系	鉄棒における「バーを越えながら後方からかか込み2回宙返り懸垂(コ/チ)」の運動学的研究
畠山 薫	トレーニング科学系	大学スピードスケート選手における短時間高強度運動中の機械的パワーと酸素摂取動態に関する研究
松本 慎吾	トレーニング科学系	レスリング競技のグレコローマンスタイルにおける「依返し」動作に及ぼすスピードの要素と体力要素についての検討
三橋 智広	スポーツ文化・社会科学系	ボールパークから見た地域性
関 石基	健康科学・スポーツ医学系	Association between the angiotensin converting enzyme (ACE) LD polymorphism and distance run in Japanese university track athletes
八木 茂典	健康科学・スポーツ医学系	シンスプリントの重症度評価に関する研究
山本 雄太	スポーツ文化・社会科学系	浜谷区における地域のスポーツ活動の現状と地域・学校・行政の連携について
吉岡 潤	スポーツ文化・社会科学系	スポーツにおける禁止行為に関する研究ーサッカーを中心としてー
渡邊 航平	トレーニング科学系	下肢の形態的特徴がペダリング中の関節動作および筋活動に与える影響
金セツヒヨル	スポーツ文化・社会科学系	韓国女性による射撃競技の受容と展開(1945-1988)ー韓国女子スポーツ史研究の一環としてー
竹田 佳代	トレーニング科学系	合気道における認知的技能に関する研究ー技量の判断についてー
袴田 智子	トレーニング科学系	三次元人体計測法による形態、体表面積及び体積測定に関する研究
藤丸 真世	スポーツ文化・社会科学系	日本におけるシンクロナイズド・スイミングの受容と展開ー浜寺水練学校における能流泳法に着目してー
山崎 麻衣	健康科学・スポーツ医学系	トランポリン競技におけるスポーツ損傷に関する研究

学位記授与式は2007年3月10日に横浜健志台キャンパスに行われました。



学位記授与式風景の様子

おわりに

本年度は課程博士3名と論文博士1名の博士号取得者を本大学院から輩出しました。高度な専門的知識と技能を身に付けた本学の学位取得者が国内外を問わず活躍することを確信しています。また本大学院にて研究活動を行ってみたい方は心より歓迎しますので、本学入試課まで遠慮なくお問い合わせください。

平成19年度 キャリア教育支援講座(予定)

学生全員の夢を100%実現させる様 キャリア教育支援課は努力を続けます。

キャリア教育支援課では毎年様々な支援講座を実施しています。平成19年度は更に充実、1年次から始まるキャリアガイダンスや志望先にそった講座をきめ細かくサポートします。上手に活用して自分の夢をカタチにしてください。

全体	対象 開催時期	内容
ようこそ先輩	全学年 4、5、6、10月	本学OBの著名人から『働くこと』について、学生時代にやっておくこと等を講演していただく。
働くとは(就職する意義・目的、ガイダンス)	主に学部3年 短大1年 7月	『働くこと』の意義目的、最近の就職状況、キャリア教育支援課の仕事、今後の方向性など確認する。
自己分析	主に学部3年 短大1年 10月	社会人になる前に自分を振り返り、自己PR、志望動機につなげる。
マナー基礎講座	主に学部3年 短大1年 11月	社会人としてのマナーの基礎を知る。
先輩の就活報告会	主に学部3年 短大1年 11月	教員、企業、公務員内定者によるパネルディスカッション。
OB/OG懇談会	主に学部3年 短大1年 12月	教員、企業、公務員のOB/OGによるパネルディスカッションと懇談会
合同就職説明会	主に学部3年 短大1年 1月	30社ほどの企業、公官庁人事担当者を招き、採用状況、業務内容など説明を受け、アプローチをする。

教員関係	対象 開催時期	内容
公立学校教員採用試験対策講座	学部4年 短大2年 3月	各都道府県別教員採用試験の採用状況および試験内容の留意点
「教員になるには!」対策講座(年2回)	全学年 3、10月	OB教員からの教員になるための心構えと、現役合格者の体験談
「何が何でも教員!」対策講座(年4回)	全学年 未定	教員採用試験情報及び資料配布、カリスマOB教員の現場での体験談
筆記試験対策講座「一般教養編」	全学年 7~9月	教員採用試験対策一般教養編講座(外部講師)
筆記試験対策講座「教職編」	全学年 7~9月	教員採用試験対策教職編講座(外部講師)
筆記試験対策講座「専門教養編」	全学年 1~2月	教員採用試験対策専門教養編講座(外部講師)
2次試験対策「基礎講座」	全学年 毎月3回	自己PR・論文の書き方・集団討議・模擬授業・模擬面接のポイント講座(外部講師)
2次試験対策「試験直前講座」	学部4年 7~8月	自己PR・論文の書き方・集団討議・模擬授業・模擬面接の実践講座(外部講師)
2次試験対策「短期集中講座」	学部4年 8月	自己PR・論文の書き方・集団討議・模擬授業・模擬面接の実践講座(本学教職Ⅲ研究室教員外部講師)
教員採用試験模擬テスト(年5回)	全学年 年5回	教員採用試験模擬テスト(一般・教職教養、専門教養、論作文)
教員採用試験のための勉強会	全学年 通年(月・金曜日)	教員採用試験のための勉強会(講師:教職教育研究室教員・非常勤講師、外部講師)
宿泊研修(春季・夏季・秋季)	学部3年 春季(3月) 学部4年 夏季(7月) 学部3年 秋季(9月)	教員採用試験現役合格のための宿泊研修(講師:教職教育研究室、OB校長)
「小学校認定資格試験」筆記対策講座	全学年 1~2月	教員採用試験対策小学校認定資格編講座(外部講師)
学生アドバイザーによる合格体験コーナー	全学年 10~翌1月	現役合格した学生にアドバイザーとして、キャリア教育支援課内に相談コーナーを設ける。

企業関係	対象 開催時期	内容
夏休みを有効に過ごすため	主に学部3年 短大1年 6月	インターンシップの動機(企業、官公庁、自治体)
学内インターンシップ	主に学部3年 短大1年 8月	学内で働くことの疑似体験をする。
一般常識模擬テスト	主に学部3年 短大1年 10月	一般常識テストを行い総合評価により自分の実力を知る。
仕事さがし	主に学部3年 短大1年 10月	社業種、職種について理解して、自分の適性と照らし合わせる。
リクナビ登録講座	主に学部3年 短大1年 11月	リクナビの登録の仕方、フリーメールの取得を実際に内容を確認し登録をする。
エントリーシートの書き方講座	主に学部3年 短大1年 11月	自己分析に基づき、自分らしい履歴書、エントリーシートの書き方について勉強する。
各企業業界研究	主に学部3年 短大1年 11、12月	各業界(食品、メーカー、不動産、スポーツクラブ、旅行関係、など)の人事担当者より業界についてご説明いただく。
集団模擬面接講座	主に学部3年 短大1年 12月	一次面接を想定して、模擬面接(集団)を体験する。
企業集中研修講座	主に学部3年 短大1年 1月	企業就職活動の集中研修 自己分析、自己PR、一般常識、面接など研修する。
企業一般常識試験対策講座	主に学部3年 短大1年 1月	企業就職活動における、一般常識試験の対策講座を行い能力を高める。
未就職者のフォローガイダンス	卒業学年 11月	就職未決定者に関するフォローガイダンスを行いサポートを行う。

公務員関係	対象 開催時期	内容
公務員採用試験直前の説明会	主に学部3・4年 短大1・2年 4月、3月	各公務員採用担当者に試験に臨む心構え及び願書記入などについてご指導いただく。
公務員採用試験二次対策(面接)	全学年 5月、9月、1月	公務員採用試験一次合格者及び希望者を対象とした面接講座
公務員講座(入門・基礎講座)	全学年 9月	公務員試験対策入門・基礎編(40コマ、1日3コマ)
公務員業種別説明会	全学年 11月、12月	警察官、消防官、自衛官の採用担当者による説明会
公務員全国模擬試験(1回目)	全学年 11月	総合型模試(教養)
公務員講座(実践講座)	全学年 11月	公務員試験対策実践編(30コマ、1日2コマ)
公務員全国模擬試験(2回目)	全学年 1月	地方上級型模試(教養) 警察官型模試(教養)
公務員全国模擬試験(3回目)	全学年 3月	地方上級型模試(教養) 警察官型模試(教養)

福祉関係	対象 開催時期	内容
社会福祉士国家試験対策講座	健康学科3年 11月上旬 ~12月下旬	社会福祉士国家試験対策講座(社会福祉学研究室及び外部講師)(24コマ)

短大関係

体育科 関係	対象 開催時期	内容
業界研究	1・2年 10月	進路調査、業界研究・学生合格体験談
マナー講座	1・2年 10月	マナー・化粧の仕方等、模擬面接
未就職者フォロー講座	2年 10月	就職未決定者に関するフォローガイダンスを行いサポートを行う。

幼児教育保育科 関係	対象 開催時期	内容
業界研究	1・2年 10月	進路調査、業界研究・学生合格体験談
マナー講座	1・2年 10月	マナー・化粧の仕方等、模擬面接
公立保育士対策講座	1・2年 夏季または春季休命中	公立保育士就職のための試験対策講座(教養科目中心)X30コマ)
未就職者フォロー講座	2年 10月	就職未決定者に関するフォローガイダンスを行いサポートを行う。

TOPIC 教員組織の変更について

「学校教育法」「大学設置基準」等の教員組織に係る内容が平成19年4月1日より改正施行されるに伴い、本学における教員組織も以下のとおり変更となりました。

これまでの組織

教授 助教授 講師 助手 非常勤講師



平成19年度からの組織

教授 准教授 助教 助手 非常勤講師

日本体育大学学則(抄)
第5節 職員組織及び職務
第10条第2項

- (4) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (5) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (6) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識、能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (7) 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- (8) 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

また、これに伴い任期制教員の規程も整備され、任期制教員就業規則が制定されました。

TOPIC 健志台に女子学生寮が新設されました！『健志台桜寮』

学生生活課

安心して安全な住環境を提供する学生生活支援のため、横浜・健志台キャンパス近くに女子学生寮が平成19年4月にオープンしました。名称は『健志台桜寮』です。

本学の学生寮は学生の経済的負担を軽減するための厚生施設であるとともに、共同生活を通して学生相互の親睦を深め、社会人・体育人としての基礎的な教養を身につけることを目的としています。



建物概要

- ・構造 / 鉄筋コンクリート造5階建
- ・延床面積 / 2,599.83㎡ (786.44坪)
- ・居室数 / 80室 (1人部屋40室、2人部屋40室)
- ・収容人数 / 120名
- ・居室標準仕様 / 1室 約14㎡ (4.24坪)
- ・共用施設 / 食堂、ミニキッチン、浴室、シャワー室、談話コーナー、ランドリールーム、多目的室、駐輪場
- ・その他 / 電子ロック式セキュリティ(エントランス) 全室インターネット端子完備 全室個別空調(エアコン)完備

所在地 / 〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鶴志田町550-1

交通 / 東急田園都市線 青葉台駅下車

東急バス「鶴志田団地行き」(青葉台駅 - 団地中央 約10分)

団地中央バス停下車 徒歩3分 横浜・健志台キャンパスから徒歩約12分

TOPIC 卒業生・修了生のますますの活躍を願って

平成19年3月10日、横浜・健志台キャンパス米本記念体育館にて平成18年度「大学・短大卒業式」が行われ、大学体育学部1,260名、短大188名に卒業証書が授与された。午後からは、会議室にて「専攻科修了式」が引き続き「大学院学位記授与式」が行われ、専攻科15名に修了証書が、大学院36名(前期課程33名、後期課程3名)に学位記が授与された。



TOPIC 「第17回リーダーズキャンプ」報告

校友会総務委員会

2月26日(月)・27日(火)の泊2日、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて『第17回リーダーズキャンプ』を開催した。

このリーダーズキャンプは、校友会総務委員会の運営のもと、年1回本学の校友会クラブ・サークルの代表者が集い、リーダーの育成と体育人としての意識向上を図る宿泊研修会である。本年度は『心汲・心潤～相手の心をすくい取り、枯れた心に潤いをあたえられるリーダーになる～』というテーマを掲げ、180人の学生がグループに分かれ、活発な討議を行った。



講話「若者の悩みと現状」(水谷 修氏)

1日目
開会式、
講話(水谷 修氏)、
分科会、親睦会

2日目
朝会、AED講習会、
レクリエーション、
分科会、全体会、閉会式



AED講習会

TOPIC 平成18年度退職教員紹介

山田 良樹 (やまだ よしき)

1936(昭和11)年生まれ。山口県出身。山口県立久賀高校から55年日本体育大学入学。59年卒業後、日本体育大学助手、講師、助教授を経て、78年より教授として勤務。2007年3月定年退職。

斉藤 照夫 (さいとう のぶお)

1937(昭和12)年生まれ。千葉県出身。千葉県立長生第一高校から55年日本体育大学入学。59年卒業後、文京学園女子高校の教員として勤務。62年日本体育大学助手、講師、助教授を経て79年より教授として勤務。2007年3月定年退職。

佐藤 健 (さとう たけし)

1967(昭和42)年生まれ。岡山県出身。愛媛県立松山南高校から88年早稲田大学入学。92年卒業後、同大学院へ進学し博士課程修了後、早稲田大学情報教育科学・研究センター教務補助、同大学助手、国立身体障害者リハビリテーションセンター研究員を経て、2000年日本体育大学講師として勤務。2007年3月退職。

訃報

たけもと 名義教授
竹本正男 名誉教授

平成19年2月2日、胆管がんにて川崎市の入院先で死去。87歳。島根県出身。

1940年(昭和15)日本体育会体操学校高等師範科卒。同年、日本体育会体操学校助手。46年日本体育専門学校助教授。51年日本体育大学助教授を経て、62年より教授。81年から87年まで日本体育大学副学長、兼日本体育大学女子短期大学副学長を務めた。90年日本体育大学客員教授。91年日本体育大学名誉教授の称号を授与。76年スポーツ功労者表彰受賞。81年紫綬褒章受賞。93年勲3等瑞宝章受賞。97年(平成9)国際体操殿堂入(日本人初)。体操競技では、ローマ五輪で男子団体金メダル獲得、その他の五輪、世界選手権をはじめ数々の世界大会で選手として優勝する等活躍した。また、監督・コーチとしても数々の大会で日本チームの優勝に貢献した。日本の体操競技の栄光の基礎を築いた功労者として、「体操の神様」の異名で賞賛されていた。

おだしあき
小田敏彰 教授

平成18年11月15日、急性呼吸不全のため横浜市での自宅で死去。68歳。岡山県出身。

1961年(昭和36)日本体育大学体育学部卒業後、日本体育大学助手、講師、助教授を経て79年より教授として勤務。校友会水泳部長、日本体育大学女子短期大学部長、学校法人日本体育会理事、日本体育大学体育学部長を歴任。45年間の長きにわたり、一貫して日体大の教育研究、大学運営に尽力された。また、競泳や飛込競技に関する競技力向上の研究やスキューバダイビング等マリンスポーツの普及発展に尽力され、日本水泳連盟委員、社団法人社会スポーツセンター評議員、日本スポーツ方法学会理事を務めた。06年(平成18)正五位瑞宝中章受賞。

もりた ひであき
森田英夫 講師

平成19年2月15日、心筋梗塞のため横浜市での入院先で死去。55歳。埼玉県出身。

1974年(昭和49)日本体育大学体育学部卒業後、日本体育大学副手、助手を経て81年より講師。校友会サッカー部の指導に尽力された。74年から関東大学サッカー連盟技術委員、75年関東大学サッカー連盟運営委員を務めた。



平成19年度新採用教員紹介



高橋 健夫 (たかはし けんお)
 [大学:教授]
 体育学科
 教職教育 / 大学院スポーツ文化・社会科学系
 東京教育大学大学院体育学研究所修士課程修了
 体育科学博士



小泉 和史 (こいずみ かつし)
 [大学:准教授]
 社会体育学科
 野外方法(海洋)
 日本体育大学大学院体育学研究所博士
 前期課程修了
 体育科学修士



瀬尾 京子 (せお きょうこ)
 [大学:助教]
 体育学科
 運動方法(体操競技)
 日本体育大学大学院体育学研究所修士課程修了
 体育学修士



黄 仁官 (わうじんかん)
 [大学:助教]
 社会体育学科
 大学院トレーニング科学系
 日本体育大学大学院体育学研究所修士課程修了
 体育科学博士



小山内 弘和 (おさない ひろかず)
 [大学:助教]
 社会体育学科
 大学院健康科学・スポーツ医科学系
 日本体育大学大学院体育学研究所博士
 後期課程修了
 体育科学博士

平成19年度 学年暦

学務課

月	日(曜日)	行事
平成19年(2007)	3(火) 4(水)~9(月)	入学式(横浜・健志台キャンパス) 新入生オリエンテーション (健康診断、スポーツテスト、学生証手続、履修申告、他) 在学生 健康診断、履修申告確認等 前学期授業開始 履修申告確認期間 養護実習(健康学科養護コース4年)【5/12(土)まで】 介護等体験事前指導講習会(短大体育科1年・その他)
4	10(火) 10(火)~13(金) 10(火)~ 14(土)	振替休日 振替休日
5	1(火) 2(水)	振替休日 振替休日
6	5/28(月)~6/23(土) 4(月)~23(土)	教育実習(大学4年)、教育実習(短大体育科2年) 教育実習 2(短大幼児教育保育科2年)
7	1(日)~14(土) 1(日)~14(土) 4(水)~7(土) 中旬 16(月) 30(月) 31(火)~8/6(月) 31(火)~	夏季実習期間 1(短大幼児教育保育科は実習に並行して通常授業) 大学 海浜実習(1年) 1回 1(日)~4(水) 2回 4(水)~7(土) 3回 8(日)~11(水) 4回 11(水)~14(土) 短大 体験学習(1年) 短大 国際交流実習(体育科2年) 通常授業(海の日) 前学期授業終了(試験を含む) 試験・補講期間(学部・短大体育科) 看護臨床実習(健康学科養護コース3年)【9/1(金)まで】
8	3(金)~8(水) 9(木)~ 9(木)~	試験・補講期間(短大幼児教育保育科) 夏季休業 社会教育実習(社会体育学科3年)【9/30(日)まで】
9	18(火) 18(火) 20(木) 24(月) 24(月)~30(日)	後学期授業開始(短大幼児教育保育科) ホームルーム(短大幼児教育保育科) 開学記念日 通常授業(短大幼児教育保育科) 夏季実習期間 2
10	1(月) 1(月)~12(金)	後学期授業開始(学部・短大体育科) ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(学部・短大体育科)
11	1(木) 2(金)~4(日) 5(月) 6(火)、7(水) 23(金)	通常授業(短大幼児教育保育科) 日体フェスティバル【11/1(木)準備日】 通常授業(短大幼児教育保育科) 振替休日 通常授業(勤労感謝の日)
12	24(月) 25(火)~	通常授業(12月授業終了日) 冬季休業【1/6(日)まで】
平成20年(2008)	7(月) 21(月) 22(火)~28(月) 28(月)~30(水) 31(木)	1月授業開始 後学期授業終了(試験含む) 試験・補講期間(学部・短大体育科) 試験・補講期間(短大幼児教育保育科) 入学試験準備(関係者以外学内立入禁止)
1	1(金)~5(火) 6(水)~7(木) 10(日)~25(月) 中旬 2月末~3月 26(火)~29(金)	平成20年度入学試験 試験・補講期間(短大幼児教育保育科) 冬季実習期間 伝統文化交流実習、外国語実践実習(武道学科3年) 介護等体験事前指導講習会 ホームルーム期間(成績ガイダンス含む)(全学年) 在学生履修申告手続期間(大学1~3年・短大1年)
2	10(月) 11(火)~	卒業式(横浜・健志台キャンパス) 春季休業

平成19年度助手一覧

研究室	氏名	研究室	氏名
自然科学	奈良 真孝	運動方法(レスリング)	湯元 健一
人文科学	仲 立貴	運動方法(トランポリン)	添田 壮一
社会科学	相子 知啓	運動方法(ソフト・野球)	今野 貴経
外国語	原 菜見子	運動方法(バドミントン)	内藤 祐輔
芸術	内木場 美紗	運動方法(テニス・ソフトテニス)	篠原 秀典
情報処理	星 雄樹	運動方法(ゴルフ)	中里 さや香
教職教育	齋藤 愛	健康教育	山崎 桃子
教職教育	佐々木 史之	健康管理学	塚本 徳幸
教職教育	鈴木 佳菜	衛生学・公衆衛生学	越智 英輔
学校体育	森本 貴美子	スポーツ医学	菅原 道央
体育経営管理	金 セツピョル	社会福祉学	白鳥 秀樹
発達発達	韓 一栄	武道学	池上 正志
体育心理	織木 智彦	運動方法(剣道)	新里 知佳野
運動生理学	廣瀬 立朗	運動方法(相撲)	園田 泰史
身体動作学	佐藤 孝之	体育社会学	中野 克哉
体育原理	波多腰 克晃	社会教育学	亀山 有希
体育史	野村 絵理	レクリエーション学	菅 伸江
体育測定評価	染谷 俊一	レクリエーション方法	白井 利枝
運動処方	原田 佐希	短大体育科	澤田 美希
コーチ学	新宅 裕也	短大体育科	竹内 敦
運動方法(水泳)	高木 雄平	幼児教育保育科	開東 里佳
運動方法(体操)	岡見 雄介	体育研究所	青山 健太
運動方法(バスケットボール)	小谷 究	スポーツトレーニングセンター	下塚 健一郎
運動方法(ハンドボール)	笹田 裕子	スポーツトレーニングセンター	砂川 力也
運動方法(サッカー)	矢野 晴之介	スポーツトレーニングセンター	上野 敦史
運動方法(ラグビー)	南山 英之	スポーツトレーニングセンター	横野 陽介
運動方法(ダンス)	太田 早織		

日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構奨学金の応募の機会は基本的に年に一度です。募集説明会の日時等は掲示で通知しますので、希望者は必ず確認をして、応募の機会を逃さないようにしてください。(4月上旬予定)
 なお、家計を支えている人の失職、死亡、不慮の事故、災害などによって家計が急変した場合は「緊急採用」「応急採用」がありますので、事情が生じたときには早急に東京・世田谷キャンパス学生生活課、横浜・健志台キャンパス健志台教学課に相談をしてください。

問い合わせ先
 東京・世田谷キャンパス 学生生活課 03-5706-0904
 横浜・健志台キャンパス 健志台教学課 045-963-7905

【編集後記】

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。健志台の正門からつづく桜の木々も皆さんを祝福しています。1955年から受け継がれてきた本学のシンボルマークは、今まさに咲いている桜をデザインしたものです。六つの花弁を持った花桜で、中央の三つの花弁は体育大学のTをあらわし、背後の三つの花弁はそれを支える同窓、保護者、社会を表しています。ここにあるように、我々は様々な人々に支えられ生活し、勉学や研究・クラブ活動に打ち込めるという感謝の気持ちを常に持ち続けることの重要性をこのシンボルマークが語りかけていると思います。

最後になりますが、今号の取材に際し、インタビューや撮影にご快諾いただきました多くの方々に対し、この誌面をお借りして、広報委員一同、深く御礼申し上げます。



日本学生支援機構